

# 子ども食堂の人的脆弱性と権利保障

—子ども食堂の支援団体による調査に着目して—

氏名非公開希望（駒崎ゼミナール）

## 目次

### 序章

#### 第 1 章 子ども食堂と子どもの貧困および子どもの権利のかかわり

##### 第 1 節 子ども食堂の定義と役割

##### 第 2 節 政府から期待される子ども食堂の役割と効果

##### 第 3 節 子ども食堂の概要

##### 第 4 節 子ども食堂におけるボランティアの継続要因

#### 第 2 章 子ども食堂の脆弱性と子ども食堂を支援する団体

##### 第 1 節 子ども食堂の課題

##### 第 2 節 子ども食堂を支援する団体の概要

##### 第 3 節 認定 NPO 法人全国こども食堂支援センターむすびえの概要と役割

#### 第 3 章 こども食堂の現状&困りごとアンケート分析

##### 第 1 節 むすびえ「こども食堂の現状&困りごとアンケート」の各回の概要

##### 第 2 節 むすびえによる「こども食堂での困りごと」のデータ分析

##### 第 3 節 むすびえによる「こども食堂の現状&困りごとアンケート」自由記述部分分析

### 終章

### 引用文献・巻末資料

## 1 序章

子ども食堂の多くは、「子どもを中心に幅広い世代の人たちが食を通じて交流する場所」として運営されており、各省庁からは子どもの「孤食や孤独」や「虐待」の防止的役割、「食育」の推進的役割が期待されている。さらに山野によると、子ども食堂は複合的・重層的にさまざま

な貧困等の課題を抱える子どもたち（山野 2014:258）にとって、食という生存権や、身体的・精神的・道徳的及び社会的な発達のための相当な生活水準の権利（中野・小笠 1996:140, 巻末 26-29）を保障する存在だと推察できる。子ども食堂には活動を支援する団体が複数存在するものの、参加者・運営スタッフ・行政や地域との連携等の課題（佐藤・小形 2025:138-139）があり、子ども食堂に人的な脆弱性が存在することが明らかになっている。このような人的脆弱性は、民間の有志者によって広まった子ども食堂において、運営継続の困難や限界に発展することも考え得る。その際、子ども食堂の存続の難しさは、子どもの生存権や生活水準の権利の視点から、保障にダイレクトにつながる問題が生じてしまうといえるだろう。そこで、本論文では社会において、その役割や必要性が認められている子ども食堂の運営主体がなぜ行政ではなく、人的に脆弱な民間の有志者によって行われているのか明らかにすることを目的とする。その際、子どもの生存権等の保障につながる、子どもの権利保障の視点から検討する。

## 2 子ども食堂と子どもの貧困および子どもの権利のかかわり

第 1 章では、子ども食堂の役割に着目し、子どもの貧困や権利との関係を整理した。子ども食堂とは、2012 年に東京都の八百屋が、小学校に「給食以外はバナナ一本」という子どもがいることを聞き、そのような子どもたちへ何かしたいと始まった（湯浅 2019:15）。また、この活動が全国的に広がった背景は、当時社会的に子どもの貧困に対する意識が高まった時期であり、市民活動によって広まったこと（大崎 2020:2、

張 2025:34) といい、2025 年 2 月時点では全国 10,867 か所へと展開している (むすびえ HP 2025)。湯浅によると、子ども食堂の運営形態は主に、地域の誰かが交わる交流拠点のような「共生食堂」と、貧困家庭の子を対象にケアに重点を置く「ケア付食堂」の 2 つがあるという (湯浅 2017:77)。さらに、子ども食堂は主に行政や専門職が行う「明らかに貧困な子ども＝赤信号の子ども」への対応ではなく、「たかだか修学旅行に行けない程度の子ども＝黄信号の子ども」が「赤信号の子ども」へ転落するのを防止する役割があるという (湯浅 2019:21, 24)。

### 3 子ども食堂の脆弱性と子ども食堂を支援する団体

第 2 章では、子ども食堂の課題や子ども食堂を支援する団体の概要を整理した。子ども食堂の課題には、参加希望者数や開催頻度の多少と運営スタッフや資源のキャパシティによる課題や、IT 知識や行政・地域との連携不足による開催告知が困難という課題があること (佐藤・小形 2025:138) から、子ども食堂が人的に脆弱であることが明らかである。子ども食堂を支援する団体では、多くの団体が、子ども食堂の利用者・支援者・運営者ごとに情報提供や仲介を行っていることが明らかになった。特に認定 NPO 法人全国こども食堂支援センターむすびえでは、子ども食堂の運営支援だけでなく、子ども食堂に関わる人や地域、子どもたちとそれらの未来すべてに対して、精力的に活動している思いの強さが明らかとなった。そしてその熱意は、子ども食堂に関する情報発信となる調査・研究までの幅広い活動からも明らかである。

### 4 こども食堂の現状&困りごとアンケート分析

第 3 章では、むすびえによる子ども食堂の困りごと調査を用いて、子ども食堂の人的脆弱性を分析した。第一に、子ども食堂における「人」に関する困りごとは、直接的に子ども食堂にかかわる運営者・利用者・支援者への負担やストレスへの影響だけにとどまらず、運営継続その

ものが困難になり得る状況が生じており、子ども食堂の脆弱さが明らかになった。第二に、子ども食堂には前章までに明らかにした役割期待以上に、運営者やスタッフに対して子どもの生存権保障への期待が、利用者や行政からかけられている実態を確認できた。

### 5 終章

本論文で明らかになったことは、子ども食堂は社会的にその役割が認められ、支援団体等から支援を受けているのも関わらず、人手不足や資金不足などにより、「子どもを助きたい」という熱意を持つ有志者や営利を目的としない運営に頼りきった結果、子ども食堂の継続を悩ませる実態がみえてきた。そのため、民間の有志者による脆弱な運営状態は、子ども食堂を利用する子どもの生存権の権利を危うくすることに、ダイレクトにつながる事が明らかとなった。子ども食堂の運営主体に行政がならない理由は 2 点ある。1 点目は、行政に子どもの権利保障に対する意識が欠けていることである。2 点目は、本来ならば行政が主体的に生存権保障を行うという認識が不十分なためである。本論文の限界は、子ども食堂の運営にかかわる人の属性を考慮した上での研究が出来なかった点と、子ども食堂の運営主体が政府主体ではない理由を具体的に言及できなかった点である。

### 6 主要参考文献

- 佐藤美輪・小形美樹, 2025, 「地域の寄り添う子ども食堂の現状」『仙台青葉学院大学・仙台青葉学院短期大学紀要巻』 2(16):138-139.
- 認定 NPO 法人全国こども食堂支援センター・むすびえ「むすびえが目指す社会—むすびえについて—」認定 NPO 法人全国こども食堂支援センター・むすびえホームページ (取得日 2025 年 12 月 11 日 <https://musubie.org/about>) .
- 山野良一, 2014, 『子どもに貧困を押し付ける国・日本』 光文社.
- 湯浅誠, 2019, 「こども食堂の過去・現在・未来」『大阪：日本生命済生会「地域福祉研究」』 (47):15. 20-21. 24.